

ー産学連携シンポジウムー

宝石サンゴと森林の 資源管理の共通性

宝石サンゴと森林は10～20年単位の管理が必要であり、資源の保護・育成に共通性がある。
環境問題、SDGsの観点から講演とパネル討論を行う。

2024

3/5 火 14:00～

事前登録制・参加費無料

ご登録・詳細は参加登録ページをご覧ください▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_sNBRELMQ8uoKJu591d5vw

会場：統計数理研究所2階大会議室および

Zoomウェビナーによるハイブリッド形式



宝石サンゴの資源管理

立正大学 地球環境科学部 環境システム学科 教授 岩崎望

日本近海は宝石サンゴの有数の産地であり、良質なものが漁獲される。しかし、長年にわたる漁獲のために資源が減少している。さらに、近年の価格高騰により漁獲圧が増している。今やその絶滅が危惧されており、アカサンゴ・モモイロサンゴ・シロサンゴは、環境省レッドリストで準絶滅危惧に指定されている。そのため、科学的知見に基づく漁業管理は喫緊の課題である。宝石サンゴは脆弱で成長速度が遅いため、その資源管理には長期的な見直しをもった取り組みが必要である。本講演では宝石サンゴの特徴を森林と比較しつつ紹介し、資源管理の現状と課題について報告する。

森林管理最適化モデルのサンゴ管理への応用

統計数理研究所 データ科学研究系 教授 吉本敦

持続的な森林管理では多年に渡り保育と収穫が必要となる。そこでは対象とする森林の規模・制御の仕方により、大きく「林分レベル」と「森林レベル」に分類され、管理に関わる意思決定を支援する最適化モデルの開発が進められている。樹種・林齢がほぼ同じで、比較的面積規模が小さい「林分」では、特に動的計画法により管理施策である間伐・主伐の最適な時期・強度などが探求される。それに対し、異なる林分が集まり面積規模も大きい「森林レベル」では、伐採箇所・時期、あるいは森林内の野生動物の保護地などの設置に関わる時空間的な最適化計画が整数計画法などの手法によりモデルの開発が進められている。今回「サンゴ」の持続的な管理に対し、これまで開発してきた森林管理に対する最適化モデルの利用が可能か否かを探索する。

パネル討論

宝石サンゴと森林資源管理の共通性

立正大学 岩崎教授 × 統計数理研究所 吉本教授

主催 / 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 本部産学連携・知的財産室、
統計数理研究所

共催 / 学校法人立正大学学園 立正大学